

世界の市場に動揺が広がるなか、
強さが際立つ利回り資産や金

楽読(ラクヨミ)

nikko am
fund academy

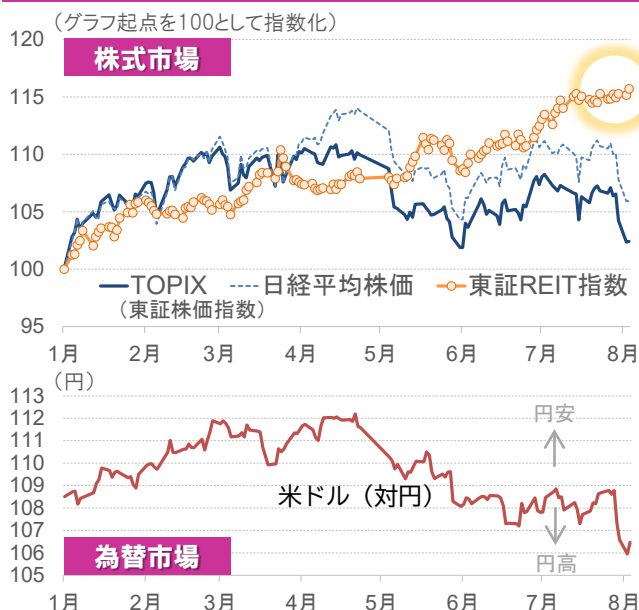
トランプ米大統領が、対中制裁関税第4弾の実施を8月1日に突如表明して以降、世界景気への悪影響が懸念された金融市場では、変動性の高い状況が続いています。こうしたなか、より高い利回りや安全性を求めた資金が流入したことを受け、REIT(不動産投資信託)や国債、金などの堅調さが際立っています。

日本の金融市場では、世界的な金利低下に加え、日本株式市場が一進一退で方向感に乏しい展開となるなか、分配金利回りが足元で3.5%前後のJ-REITは、投資家の利回りニーズの強まりや堅調な不動産市況などを背景に、活発な資金流入が続いてきました。債券市場でも、長期金利指標である10年国債利回りが今年に入ってマイナス水準に沈むなか、年金基金や保険会社などの機関投資家を中心に、超長期国債や社債などに資金をシフトする動きが顕著となっており、利回りを求める動きが加速しています。加えて、足元の市場混乱を受け、より安全性の高い資産への資金シフトが顕著となり、国債利回りの低下(債券価格は上昇)が進みました。

「金」については、利息のつかない資産であるものの、足元の米ドル安を受けて代替通貨としての性質が選好されたことに加え、地政学リスクの高まりや世界景気の先行き不透明感などを背景に、投資家のリスク回避の動きが重なったことで、金価格は力強い推移を続け、6年3ヵ月ぶりの高値水準まで上昇しています。

今後の金融市場は、足元の投資家の動揺やパニック売りが収まれば、徐々に落ち着きを取り戻すとみられますが、米中貿易交渉は長期化が見込まれることや、7月末に約10年半ぶりの利下げに踏み切った米国について、年内追加利下げのタイミングや幅などに対する市場の関心が高まっていることなどから、当面、これらが材料となり、市場変動が高まる場面が想定されます。そのため、引き続き、利回り資産や金などが強みを発揮しやすい投資環境にあり、株式や債券に加えてこれらの資産もうまく活用し、リスク分散を図る必要性が高まっていると考えられます。

主な資産の年初来推移(2019年1月4日~8月6日)



信頼できると判断した情報をもとに日興アセットマネジメントが作成

※上記は過去のものであり、将来の運用成果等を約束するものではありません。

日興アセットマネジメント

■当資料は、日興アセットマネジメントが市況等についてお伝えすることを目的として作成したものであり、特定ファンドの勧誘資料ではありません。また、弊社ファンドの運用に何等影響を与えるものではありません。なお、掲載されている見解は当資料作成時点のものであり、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。■投資信託は、値動きのある資産(外貨建資産には為替変動リスクもあります。)を投資対象としているため、基準価額は変動します。したがって、元金を割り込むことがあります。投資信託の申込み・保有・換金時には、費用をご負担いただく場合があります。詳しくは、投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。